

実践編

「DLA〈はじめの一步〉」

〈話す〉〈読む〉〈書く〉〈聴く〉

概要・実践ガイド

診断シート・JSL評価参照枠

第 2 章 「DLA〈はじめの一步〉」

DLA 〈はじめの一步〉 概要

(1) 目的

- ・ **DLA** 〈はじめの一步〉は、あいさつ、名前、学年などの子ども自身に関する質問の「導入会話」と55問の基礎語彙からなる「語彙力チェック」を通して、この後、**DLA**をどのように進めていくかということの参考情報を得るために実施します。
- ・ 同時に、子どもが置かれている生活環境や言語環境をよりよく知ることを目的としています。
- ・ さらに、子どもと評価者との間の信頼関係を築き、子どもが**DLA**に前向きに取り組める雰囲気作りをねらいとしています。

(2) 対象

- ・ 全ての子どもを対象とします。日本語能力がどの程度か全く予測がつかない子どもに対して**DLA** 〈話す〉 〈読む〉 〈書く〉 〈聴く〉 の評価を行う前に、導入として使用します。
- ・ 日頃の接触や観察から会話力や語彙力を把握している子ども、**DLA**を既に実施している子どもに対しては、この〈はじめの一步〉をスキップしてもかまいません。

(3) 方法

- ・ **DLA** 〈はじめの一步〉は、実践ガイド (p18-19) に沿って、「導入会話」、「語彙力チェック」の順で実施します。
- ・ 「語彙力チェック」では、巻末資料1の「**DLA** 〈はじめの一步〉語彙カード」使用し、絵の内容を単語レベルで発話させます。
- ・ 使用に際しては、切り取って厚紙に貼るなどしてカード状にし、一枚ずつ提示できるようにします。厚紙の大きさは、縦 7.5cm × 横 12.5cm 程度が望ましいです。
- ・ **DLA** 〈はじめの一步〉の実施を試みたもののまだ日本語の基礎的な会話力も十分に身につけておらず、継続が難しいと判断した場合は、「導入会話」の途中でであっても「語彙力チェック」の途中でであってもすぐに終了します。
- ・ 終了した場合は母語力の測定をお勧めします。母語がわかる実施者が近くにいない場合でもこの「語彙力チェック」の語彙カードを使用して母語の語彙力をチェックしてください。答える様子を観察し、母語力を推定します。詳しく知りたい場合は、後日録音テープを母語がわかる評価者に確認してもらおうという方法も考えられます。
- ・ 「導入会話」と「語彙力チェック」で得られた情報は全体評価の対象には入っていません。

(4) 実施の前に

用意するもの

- ・ **DLA** 〈はじめの一步〉の実施には以下のものを使用します。
 - ・ **DLA** 〈はじめの一步〉実践ガイド(p18-19)
 - ・ 「語彙カード」
 - ・ 「録音機器」(ICレコーダー、MD、テープレコーダーなど)
 - ・ 評価者用のメモ用紙(名前や、友だちの名前等、実施中に必要となる最低限の情報を書き込むためのメモ用紙)

実施前の準備

- ・ 語彙カードを番号順に揃え、ばらばらにならないようにリングでとめるなどしておきます。
- ・ 語彙カードをテンポよくめくることができるように、練習しておきます。

(5) 実施手順

座り方

- ・ 座り方は、子どもの正面に向き合わずに、机の角を挟んで座ることによって、子どもと同じ目線でカードが見られます。また威圧感を軽減することにもつながります。

録音機器のスイッチを入れる

- ・ 録音機の状態を確かめ、スイッチを入れてから、**DLA**〈はじめの一步〉を始めます。

対話の実施

- ・ **DLA**〈はじめの一步〉実践ガイドの「実施者の発話」(☺マーク)に書いてある通りに話し対話を進めていきます。

(6) 実施上の留意点

<流れを重視する>

- ・ 子どもに合わせて、自然な速さで会話を進めます。できるだけ、テンポよく子どもの興味や関心を高められるよう工夫することが大切です。
- ・ 普段から接している子どもで、冒頭の「初対面のあいさつ」(自己紹介)が不要な場合は、スキップしてください。
- ・ 途中で児童生徒の発話を遮ったり、否定したり、訂正しないでください。
- ・ 「導入会話」で、子どもが応答に困ったり、「わからない」と言ったら、もう一度質問を繰り返します。この場合、説明を加えたり、言い回しを変えたりしないでください。質問を3度繰り返しても応答出来ない場合には、そこで流れを止めずにつぎの作業に移ってください。
- ・ 「語彙力チェック」で、子どもが答えに詰まったり間違えたりしても、正解を教えたり訂正したりせずに、さっと次のカードへ移ります。

<雰囲気作り>

- ・ 話し言葉が流暢な子どもであっても、テストと聞くと緊張したり、拒否反応を示したりすることも考えられます。和やかな雰囲気作りを心がけてください。
- ・ 子どもの応答に対して、相づちを打ったり、うなずいたりして反応します。
- ・ 実施者にとっても〈はじめの一步〉はウォームアップとしても大切な活動になります。常に子どもから発話を引きだそうという意識をもって対応してください。教師ではなくファシリテーター(引き出し役)の役割を担うことが大切になります。

<対話中は採点しない>

- ・ 子どもの面前で診断シートを使って採点評価をしないでください。また**DLA**〈はじめの一步〉は他の**DLA**とセットで実施する機会が多いので、その場合は、その過程が一通り終了してから採点を行います。
- ・ 正確な評価、記録のために録音をしましょう。

<ほめておわる>

- ・ どんな日本語レベルであっても、最後には、日本語を「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

(7) 次のステップへのヒント

- **DLA** 〈はじめの一步〉を実施しながら、子どもの様子をよく観察し、次にどのようなステップで、**DLA** 〈話す〉 〈読む〉 〈書く〉 〈聴く〉を進めるか、予測をたてます。
- 「導入会話」と「語彙力チェック」が、大体**70～80**パーセント以上できると判断した場合は、次へ進むことが可能です。**20～30**パーセント以下であったら、次へ進まずに終了します。その中間で判断に迷う場合は、少し先へ進んでみて判断しましょう。
- 本章の(3)でも述べたように子どもの日本語の習得度によっては、この**DLA** 〈はじめの一步〉の途中で終了することもあります。

(8) 採点のタイミングと方法

- **DLA** 〈はじめの一步〉の正式な採点は、録音を聴きながら、その後続けて実施する他の**DLA** が終了した時点でまとめて行います。
- 〈はじめの一步〉診断シート(p20-21)の該当箇所(正答か誤答か)をチェックします。
- 「語彙力チェック」の採点には、「正誤表」(p22)をご参照ください。
- 尚、**DLA** 〈はじめの一步〉は文法、発音、イントネーションの善し悪しを判定するものではなく、あくまでも意味・概念が理解できているかということを判定します。例えば、「語彙力チェック」の動詞「泳ぐ」では、「泳いでいます」が出ないで「水泳」と答える場合もありますが、概念理解ができていると判断し正答とみなします。
- 「JSL評価参照枠」に照らし合わせた全体的な評価は行いませんが、記入済み診断シートは、今後の指導の参考のために記録として保存しておくとい良いでしょう。

導入会話

① 初対面のあいさつ：

☺ こんにちは。私は、（自己紹介）です。

② 説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。

☺ 「これから、〇〇さん/くんが日本語でどのくらいお話ができるか知りたいです。わかることは何でも話してください。わからないときは、『わかりません』と言ってください。いいですか」

③ 質問：

・次の順番で質問を進める。

- ☺
- ① 「名前を教えてください/名前は何かですか」
 - ② 「何年生ですか」
 - ③ 「何歳ですか/いくつですか」
 - ④ 「誕生日はいつですか」
 - ⑤ 「お兄さん/お姉さん(弟・妹)がいますか」

・兄弟姉妹については、個々の子どもの状況や家族構成などに応じて柔軟に対応する。

- ☺
- ⑥ 「友だちがいますか」
 - ⑦ 「友だちの名前を教えてください」
 - ⑧ 「友だちとどんなことをして遊びますか」

・タスク会話で必要となるので、しっかり友だちの名前を聞きとっておく。(メモしてもよい)

- ☺
- ⑨ 「学校は楽しいですか/好きですか」
 - ⑩ 「どうしてですか」

・理由をしっかりと述べるができるかどうかは**DLA**〈読む〉〈書く〉〈聴く〉の実施が可能かどうかの判断につながる。

- ☺
- ⑪ 「日本の学校で好きなことは何ですか」
 - ⑫ 「日本の学校で嫌いなことは何ですか」

・⑪⑫の後に、個々の子どもに対応した質問を加えてもよい。

- ☺
- ⑬ 「家で〇〇語を話しますか」

- ☺
- ⑭ 「ひらがなが読めますか。書けますか。」
 - ⑮ 「カタカナが読めますか。書けますか」

・⑭⑮の質問は**DLA**〈読む〉〈書く〉へ行くためのもの。

- ☺
- ⑯ 「〇〇語が読めますか。書けますか」

語彙力チェック

①<語彙カードが名詞の場合>(1~42)

😊 これは何ですか。そう、目ですね。では、(実施者)が「1」といったら「目」と言ってください。「2」と言ったらこれ(指で2の絵を指しながら)を言ってください。分からないときは「わかりません」と言って下さい。いいですか。では、「1」。

②<語彙カードが動詞の場合>(43~50)

・カード43番(泳ぐ)まで来たら、次のように言う。

😊 何をしますか。/何をしていますか。

③<語彙カードが形容詞の場合>(51~55)

・カード51番(短い)まで来たら、次のように言う。

😊 どんなスカートですか。

・「どんな」の意味がわからない場合は、次のように質問する。

😊 これは「長い」ですね。では、これ(「短い」ほうの絵を指して)は？

次に進みましょう.....

○導入会話・語彙力チェックでのやりとりが20~30%程度の場合は、ここで終了してもよい。

😊 これで終わりです。どうもありがとうございました。

○導入会話・語彙力チェックで半分以上やりとりができた場合は、「基礎会話」に進む。

○導入会話で会話の流暢度があり文字の読み書きができることが確認できたら、**DLA**<読む>または<書く>に進む。流暢度がかなり高い場合は、<聴く>に進むこともできる。

母語力を判定する(オプション)

○導入会話・語彙力チェックを通してほとんど日本語が出てこなかった場合や母語力を推定したい場合、同じ語彙カードを使って母語での語彙力をチェックするとよい。
(「では、今度は〇〇語(母語)でやってみましょう」のように言う。)

メモ：

- ・語彙カードは、子どもの母語による単語力の把握にも活用できる。実施方法はほぼ同じで、カードを提示して、母語で発話させる。母語でどのぐらい自信を持って応答したか、また応答できた語彙の数はいくつか数えることによって、母語力レベルを推定する。詳しく測りたい場合には、母語話者に録音を聞いて評価してもらうとよい。
- ・語彙力と会話力、読解力との関係が深いことが多くの研究から分かっている。つまり、母語の語彙力がどのくらいあるかを知ることによって、母語の会話力や読解力がどのくらいあるかを推測することができる。
- ・また、母語と日本語といった二つのことばの語彙力、読解力もそれぞれ関係が深いので、母語の語彙力を知っておくことは、子どもに対してどのように日本語を指導し、どのくらいその習得を期待したらいいのかを判断するうえで、大変重要となる。

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

実施者の発話	正答	無回答
① 「名前を教えてください/名前は何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 「何年生ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 「何歳ですか/いくつですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 「誕生日はいつですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 「お兄さん/お姉さん(弟・妹)がいますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 「友だちがいますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 「友だちの名前を教えてください。」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 「友だちとどんなことをして遊びますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 「学校は楽しいですか/好きですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 「どうして(楽しい/好き)ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 「日本の学校で好きなことは何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 「日本の学校で嫌いなことは何ですか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 「家で○○語を話しますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 「ひらがなが読めますか。書けますか。」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ 「カタカナが読めますか。書けますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ 「○○語が読めますか。書けますか」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
正答数/質問数 正答の割合	/16 ⇒ %	

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

■語彙力チェック■									
番号	語彙	正	誤	備考欄	番号	語彙	正	誤	備考欄
1	目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		31	引き出し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2	まつげ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		32	黒板	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3	口	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		33	黒板消し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4	唇	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		34	地図	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5	手	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		35	はさみ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6	親指	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		36	ノート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7	爪	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		37	運転手	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8	鼻	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		38	医者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9	ぶどう	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		39	消防士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10	卵	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		40	バス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11	海老	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		41	飛行機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12	牛乳・ミルク	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		42	翼	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
13	牛	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		43	泳いでいる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
14	(牛の)角	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		44	字を書いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
15	(犬の)しっぽ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		45	歯を磨いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
16	鶏	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		46	着る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
17	馬	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		47	起きる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
18	象	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		48	座る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
19	ねずみ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		49	掃除する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
20	(ねこの)ひげ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		50	怒る	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
21	木	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		51	短い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
22	葉	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		52	細い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
23	枝	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		53	軽い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
24	扇風機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		54	寒い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
25	電話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		55	背が高い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
26	ドア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		集計	正答数	/55		%
27	屋根	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
28	階段	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
29	窓	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
30	机	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						

「語彙力チェック」正誤表

No.	カテゴリー	正解	許容範囲	誤用例
1	I	体の一部	目	おめめ、めめ
2	I	体の一部	まつげ	まゆげ、めゆげ
3	I	体の一部	口	口紅
4	I	体の一部	唇	
5	I	体の一部	手	おてて、手の平
6	I	体の一部	親指	指、指先、おとうさん指
7	I	体の一部	爪	
8	I	体の一部	鼻	
9	II	食べ物	ぶどう	ふとう
10	II	食べ物	卵	にわとりのたまご
11	II	食べ物	海老	ざりがに、伊勢えび
12	II	食べ物	牛乳・ミルク	乳牛
13	III	動植物	牛	
14	III	動植物	(牛の)角	牛
15	III	動植物	(犬の)しっぽ	犬、いっぽ
16	III	動植物	鶏	とり
17	III	動植物	馬	ロバ
18	III	動植物	象	ぞうさん
19	III	動植物	ねずみ	
20	III	動植物	(ねこの)ひげ	ねこのけ
21	III	動植物	木	
22	III	動植物	葉	はっぱ
23	III	動植物	枝	木の枝
24	IV	機器	扇風機	
25	IV	機器	電話	携帯
26	V	家の一部	ドア	戸、扉
27	V	家の一部	屋根	かわら
28	V	家の一部	階段	
29	V	家の一部	窓	ろうか
30	VI	学校にある物	机	テーブル、勉強机、デスク
31	VI	学校にある物	引き出し	机の中
32	VI	学校にある物	黒板	教室、ごくばん
33	VI	学校にある物	黒板消し	黒板の消すやつ、黒板ふき、イレーザ
34	VI	学校にある物	地図	世界の消すやつ、黒板ふき、イレーザ
35	VI	学校にある物	はさみ	ちつ
36	VI	学校にある物	ノート	教科書、本、帳面
37	VII	職業	運転手	
38	VII	職業	医者	お医者さん、医師
39	VII	職業	消防士	消防車の人、消防隊員、消防車のおにいさん
40	VIII	乗り物	バス	バス停、車
41	VIII	乗り物	飛行機	航空機、ジェット(機)、ジャンボ(機)
42	VIII	乗り物	翼	飛行機の羽、比翼、主翼
43	IX	学校生活の動作	泳いでいる	泳ぐ、水泳、クロール、プール
44	IX	学校生活の動作	字を書いている	書く、字を書く、勉強する、宿題をする
45	X	日常生活の動作	歯を磨いている	えんぴつ、書き、短いペン、習字、絵をかく、お絵かき
46	X	日常生活の動作	着る	はがき、歯ブラシ、歯を洗っている
47	X	日常生活の動作	起きる	歯洗う
48	X	日常生活の動作	座る	着ています、服を着ている、着替え、服を着替えてる、洋服を着る
49	XI	仕事の動作	掃除する	起きます、起きてる、起きた、起床(する)
50	XII	感情の動作	怒る	ねてる／ねてない、ねむ
51	XIII	形状	短い	座ります、座ってる、いすに座っている、いすに座る、腰(を)かける
52	XIII	形状	細い	きれいにする、清掃、掃除
53	XIII	形状	軽い	怒っている、怒った、機嫌が悪い
54	XIII	形状	寒い	悪い、こわい
55	XIII	形状	背が高い	ちっちゃい
				おそい、色鉛筆
				荷物、かばん、茶色、バッグ、かばんを持つ、大きいのかばん

第 3 章 「DLA〈話す〉」

DLA 〈話す〉 概要

(1) 目的

- ・日本生まれの外国人児童生徒や学齢期に来日した子どもが、学校生活を通してまず最初に身につけるのが会話力です。毎日出会う教師や仲間となんとかコミュニケーションをとろうとして会話力の基礎が発達し、この会話力を土台として読む力、書く力が伸びていきます。**DLA 〈話す〉**は、教科学習言語能力の基礎となる大事な会話力を多面的に測るものです。
- ・**DLA 〈話す〉**は、話す力を3面で捉えます。3面とは、基礎会話・対話・認知の3つです。
- ・基礎的な文型や語彙を使って応答する基礎会話面を《基礎タスク》で、一対一でのやりとりに参加して与えられたタスクをこなせる対話面を《対話タスク》で、自分の考えや意見をまとめて述べる認知面を《認知タスク》によって測ります。この3面からトータルな「話す力」のレベルを推定します。
- ・**DLA 〈話す〉**は、場面に依存して対応できる言語能力から認知力を必要とする言語能力まで、幅広い話す力を見ようとするものです。

(2) 対象

- ・**DLA 〈話す〉**は、やっと最低限の受け答えができる子どもから流暢に話せる子どもまで、幅広いレベルの子どもを対象とします。
- ・ただし、〈はじめの一步〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。

(3) 方法

- ・**DLA 〈話す〉** 実践ガイド (p28-30) に沿って、《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》の順で実施します。
- ・子どもに無理強いをしてはいけないので、日本語の習得レベルによって《基礎タスク》で終了する場合や《対話タスク》で終了する場合もあり、《認知タスク》まで行って終了する場合があります。
- ・**DLA 〈話す〉**では、3種類の絵カードを使います。巻末資料の絵カードのうち、ピンクの枠の絵カードは《基礎タスク》のための基礎カード、黄色の枠は《対話タスク》のための対話カード、ブルーの枠は《認知タスク》のための認知カードです。使用に際しては、切り取ってカードにしてください。
- ・基礎カードは3枚、対話カードは4枚あります。順番に使用してください。
- ・認知カードは7枚ありますが、子どもの年齢に応じてその中から3、4枚を選んで使用します。(低学年の場合は2枚)

(4) 構成

- ・**DLA 〈話す〉**は、次の4つから構成されています。
 - ① 「**DLA 〈話す〉** 実践ガイド」 (p28-30)
実践ガイドに沿って《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》を行います。
 - ② 「**DLA 〈話す〉** 基礎・対話・認知カード」 (巻末資料)
実践ガイドに沿って該当するカードを使用します。
 - ③ 「**DLA 〈話す〉** 診断シート」 (p31-35)
DLA 〈話す〉を実施したあと、採点・評価に使用します。

④ 「 JSL評価参照枠〈話す〉 」 (p36)

採点・評価の結果を診断シートに記入した後、このJSL評価参照枠〈話す〉 に照らし合わせて、日本語習得のステージを推定し、どの程度の学習支援が必要かを判断します。

⑤ 「 DLA 実施レポート 」・「 DLA採点表〈全体評価〉 」 (第7章)

「診断シート」で得られた結果を記入します。

(5) 実施の前に

- 対象となる児童生徒に合わせて使いたい認知カードをあらかじめ選び、基礎カード・対話カードと合わせて順番に揃えておきます。

⇒ 認知カードを選ぶ際は【絵カードの種類と対象年齢】を参照してください。

(子どもの様子に応じてその場で変えてもかまいませんが、迷って時間をとってしまうないように見当をつけて用意しておくことをおすすめします。)

用意するもの

- 録音(録画)機器
- 使用する絵カード(基礎カード3枚、対話カード4枚、認知カード7枚のうち3、4枚(低学年は2枚))
- DLA〈話す〉実践ガイド

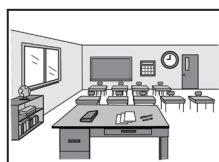
【絵カードの種類と対象年齢】

	絵カード	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学生
基礎 タスク	1.教室	○	○	○	○
	2.スポーツ	○	○	○	○
	3.日課	○	○	○	○
対話 タスク	4.先生に質問	○	○	○	○
	5.新しい先生	○	○	○	○
	6.友達を誘う	○	○	○	○
	7.キャッチボール事件	○	○	○	○
認知 タスク	8.お話	○	○		
	9.消防車	○	○		
	10.キャッチボール事件の報告		○	○	○
	11.環境問題		○	○	○
	12.地震		○	○	○
	13.水の環境			○	○
	14.蝶の一生			○	○

○は年齢に適しているカード、○のないカードは認知レベルが適していないもの。
(詳細は、次頁からの「各絵カードのねらい」をご覧ください。)

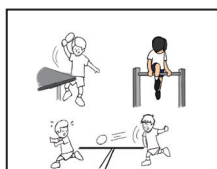
各絵カードのねらい

◇「基礎タスク」は、初期日本語指導の段階で学習する文型の定着度を測るものです。



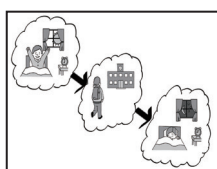
(1)「教室」

□ねらい: 存在動詞「ある・いる」を使って、物や人の存在について表現できるかどうかを見ます。2年生以上では、時間の読み方も聞きます。



(2)「スポーツ」

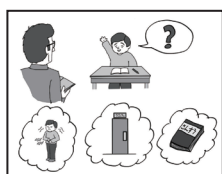
□ねらい: 「したことがあるか・ないか」(過去の経験)、「できる・できない」(可能表現)、「好きか・嫌いか」、「どちらが好きか」(比較)などの問いに答える力を見ます。



(3)「日課<起床><登校><就寝>」

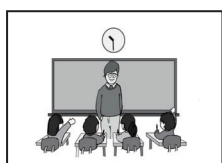
□ねらい: 動詞の現在形(習慣)と過去形の使い分け、「～て、～て」のように時系列で行動を表現する力を見ます。

◇「対話タスク」は、状況・必要に応じて自ら発話し、会話をリードする力を測定します。



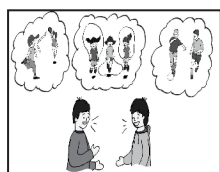
(4)「先生に質問」A,B

□ねらい: 教室で授業中にトイレに行ってもよいかどうか許可を求めることができるかどうかを見ます。また、教科書を忘れ、隣の友だちに貸してもらいたいなどの依頼ができるかどうかを見ます。



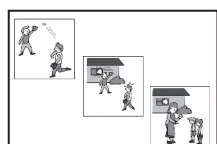
(5)「新しい先生」

□ねらい: 新しい先生に自己紹介をしたり、先生に質問をしたりすることができるかどうかを見ます。



(6)「友達を誘う」

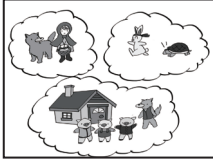
□ねらい: 友だちを誘うことができるかどうかを見ます。
会話をリードする力を見ます。(実施者は友だちの役割をします。)



(7)「キャッチボール事件」

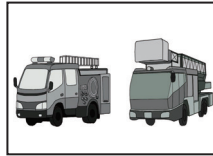
□ねらい: キャッチボールをしていて、窓ガラスを割ってしまったと女の人(その家の人)に伝えて、丁寧に謝ることができるかどうかを見ます。

◇「認知タスク」は、教科内容と関連した内容について、まとまりのある話ができるかどうかを見ます。子どもの発達に応じて7つのカードの中から3、4枚（低学年は2枚）選びます。



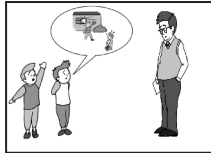
(8)「お話し」カード

□ねらい: 3つの絵からなじみのあるものを選び、ストーリーを再生できるかどうかを見ます。3つのお話以外のお話でもいいです。



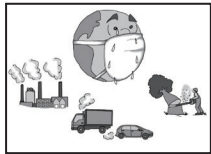
(9)「消防車」カード

□ねらい: 2台の車について、どんな役割があるか 共通点と相違点について話せるかどうかを見ます。



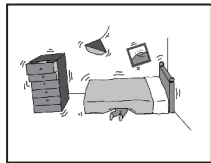
(10)「キャッチボール事件の報告」カード

□ねらい: 「キャッチボール事件」カード(7)を使って、起こったことを理由をふまえ先生に報告(説明)できるかどうかを見ます。



(11)「環境問題」カード

□ねらい: 地球が今どうなっているか説明する力を見ます。地球のために何ができるか意見が言えるかを見ます。中学生では、温暖化の要因・仕組みを説明できるかを見ます。



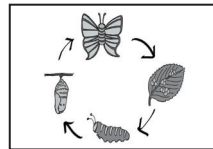
(12)「地震」カード

□ねらい: 地震の体験談を話せるかどうかを見ます。また、地震の時どうしたらよいか意見が言えるか、また、中学生では地震の要因・仕組みを説明できるかを見ます。



(13)「水の循環」カード

□ねらい: 教科の用語を使って、水の循環の仕組みを説明できるかどうかを見ます。また、水の循環に欠かせない太陽がなかったらどうなるかという質問から、仮定の出来事に対して根拠を示して答えられるかどうかを見ます。



(14)「蝶の一生」カード

□ねらい: 理科の用語を使って、卵から幼虫、さなぎ、成虫になる変化について説明できるかどうかを見ます。

(6) 実施手順

カードの使い方・座り方

- ・カードは使用する順に積み重ね、伏せて置きます。一番上のカードを裏返すと必要なカードが現れるように重ねてください。
- ・座り方は、子どもの正面に向き合わずに、机の角などを使って座り、カードが子どもと実施者の両者から見えるように置いてください。

録音機のスイッチを入れる

- ・録音機の状態を確かめ、スイッチを入れてから、**DLA**〈話す〉を始めます。
- ・〈はじめの一步〉に続けて実施する場合はすでに録音機のスイッチは入っています。

タスクの実施

- ・**DLA**〈話す〉実践ガイドの「実施者の発話」(☺マーク)に書いてある通りに話します。
- ・カードを一枚ずつめくりながら、対話を進めていきます。
- ・《基礎タスク》《対話タスク》《認知タスク》の順に進めていきますが、どうしても対話が続き子どもが沈黙してしまう状態が続いたら、《基礎タスク》もしくは《対話タスク》の段階で終わってもかまいません。

(7) 実施上の留意点

<流れを重視する>

- ・基礎タスク、対話タスク、認知タスクは、それぞれ途中でとまらず実践ガイドに沿って一気に行います。そのために、会話の流れを頭に入れておく必要があります。
- ・途中で児童生徒の発話を遮ったり、否定したり、訂正しないでください。
実施者の質問が分からない場合は、文言を変えずに3度ぐらい繰り返してください。
それでも分からない場合は、そこで流れを止めずにつぎの作業に移ってください。

<対話中は採点しない>

- ・子どもの面前で診断シートを使って採点評価をしないでください。採点評価は実施後に行います。正確な評価、記録のために録音をしましょう。

<ほめておわる>

- ・どんな日本語レベルであっても、最後には、日本語を「話した」ということを前向きに高く評価して終わってください。

(8) 評価の方法

- ・録音を聞きながら採点・評価をします。

評価の手順

- ・まず診断シート (p31-34) を使用し、質問に答えられたか・タスクが実施できたかについて平均点を出し(量的評価)、次に、その結果を踏まえ、質的評価シート (p35) で回答の質について平均点を出します。この二つを併用してJSL評価参照枠〈話す〉 (p36) のステージの判定を行います。
- ・量的評価は「正答」「無回答」の2択で行います。評価者の問いに対して意味のある回答ができれば「正答」、質問が理解できなかつたり不適切な返答もしくは無回答の場合には「無回答」にチェックします。
- ・質的評価は5点(とてもよい)、3点(ふつう)、1点(もうすこし)のあてはまるものに○をつけます。

評価項目とJSL評価参照枠との関係

- ・質的評価シートの評価項目はJSL評価参照枠の項目に対応しています。
- ・評価結果と参照枠の記述を総合的に照らし合わせて、ステージを判定してください。

■基礎タスク■

☺実施者の発話	留意点
<p>■「教室」カード(1)</p>	
<p>○「これからカードを見て、先生と少しお話をします。 先生が言うことがわからない時は、わからないと言ってもいいですよ。では始めましょう」</p> <p>①「ここはどこですか」</p> <p>②「この部屋に、何がありますか」</p> <p>③「先生の机はありますか」</p> <p>④「では、先生のいすは？」</p> <p>⑤「先生はいますか」</p> <p>⑥「では、子どもは？」</p> <p>⑦「ペンはどこにありますか」</p> <p>⑧「時計はありますか」</p> <p>⑨「今、何時だと思えますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問の順番を変えないこと ・ 質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・ 絵を指差して「ここ」と言われぬように気をつける。 ・ 質問文を途中の形にして「あります／います」を誘導する。 ・ 「ペン」を「鉛筆」と言い換えてもよい。 ・ ①の答えの中に時計が含まれている場合は、「時計がありますね」とする。
<p>■「スポーツ」カード(2)</p>	
<p>①「スポーツ(運動)が好きですか」</p> <p>②「○○さん/くんは、どんなスポーツ(運動)ができますか」</p> <p>③「(スポーツ名)は？」</p> <p>④「(スポーツ名)をしたことがありますか」</p> <p>⑤「(スポーツ名)と(スポーツ名)と、どちらが好きですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツをまだ直接経験していない子どもの場合は、親や年上の兄弟ができるスポーツについて聞く。 ・ 質問文を途中の形にして、「できます・できません」を誘導する。 ・ スポーツ名がまだ分からない年少児の場合は、評価者が絵を指でさして、「これ」と「これ」とどちらが好きかと聞くとよい。
<p>■「日課<起床><登校><就寝>」カード(3)</p>	
<p>①「今朝、何時に起きましたか」</p> <p>②「それから何をしましたか」</p> <p>③「いつも何時ごろ寝ますか」</p> <p>④「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。 寝るまでのことを話してください」</p> <p>ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間について質問する。 ・ 過去形の定着度を調べる。 ・ 習慣的動作について質問する。 ・ 「て形」を使って、動作を時系列でつなげることができるかどうかを見る。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

質問にだいたい答えられたら、間を空けずにそのまま対話タスクへ進む。

■対話タスク■

😊 実施者の発話	留意点
■ 「先生に質問」カード (4) A,B	
<p>(4)A</p> <p>① 「大変です。〇〇さん/くんは、トイレに行きたく（お腹が痛く）になりました。先生に何と言いますか。私は先生です」</p> <p>(4)B</p> <p>① 「〇〇さん/くんは、教科書を忘れました。隣の席の友だちに見せてもらいたいです。その友だちに何と言いますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの下の、「トイレ/お腹が痛い子ども」の絵を指差して質問する。 ・許可を求められるかどうかを見る。 ・Aに続いて今度は、カード下の「教科書」の絵を指差して質問する。 ・依頼ができるかどうかを見る。
■ 「新しい先生」カード (5)	
<p>① 「今日から新しい先生です。まず、自分（〇〇さん/くん）の紹介をしてください。それから、先生に質問を2つしてください。私はその新しい先生です」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施者は新しい先生の役割りをする。
■ 「友達を誘う」カード (6)	
<p>① 「今日、学校が終わったら、〇〇さん/くんと遊びたいです。〇〇さん/くんを誘ってください。下駄箱のところで会いました」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入会話のところで聞いておいた、友達の名前を使う。そして、実施者は友達役をする。 ・このタスクは、子どもが進んで自ら話を切り出し、誘い、時間、場所などを決めて、会話をしめくくる力を見るものであるから、実施者が主導権を持ってしまわないように留意する。
■ 「キャッチボール事件」カード(7)	
<p>① 「〇〇さん/くんは、今友達とキャッチボールをしています。このようなことが起こりました。この家の人(女の子)にしたことを話して、丁寧に謝ってください」</p> <p>② 「何をしたんですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カード(左)(中)(右)を順に指さしながら説明する。 ・実施者はこの家の人(カード(右)の 女の子)の役割をする。怒っている様子を演じる。

ほとんど応答ができなかった場合にはここで終わる。



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

タスクがだいたいこなせたら、間を空けずにそのまま認知タスクへ進む。

■認知タスク■

●子どもの年齢(学年)に応じてカードを3, 4枚(低学年は2枚カード8, 9のみ)選んで実施する。

☺ 実施者の発話	留意点
■「お話」カード(8)(低・中学年)	
①「小さい子どもが何かお話をすると頼みました。お話をし てあげてください」	・1つお話を選んで話す。なるべく 「三匹のこぶた」を勧める。
■「消防車」カード(9)(低・中学年)	
①「この車の名前を知っていますか」	・二つの車両を順番に指差して、質 問する。 ・二つの車両の働きで、共通点と相違 点を質問する。
②「どんな働きをする車ですか。何のために使いますか」	
③「同じところは何ですか/違うところは何ですか」	
■「キャッチボール事件の報告」カード(10)(中学年以上)	
○(「キャッチボール事件」カード(7)を使って)	・一連の事件について理由をふまえて、 説明できるかどうかを見る。
①「このカードを見てください。このカードを使って、起こ ったことを先生に報告してください」	
■「環境問題」カード(11)(中学年以上)	
①「地球が泣いています。どうして泣いていると思いますか」	・中学生向けの設問。要因、仕組みに ついて教科の用語を使って説明でき るかを見る。
②「どうすればいいと思いますか」	
③「温暖化について学校で習いましたか。温暖化がどうして起 こるか説明してください」	
■「地震」カード(12)(中学年以上)	
①「地震に遭ったことがありますか」	・子ども自身が地震を体験したことが ない場合には、親の体験などについ て話すよう促す。
②「その時のことを話してください」	
③「学校で地震が起きたら、どうしますか」	・中学生向けの設問。要因、仕組みに ついて教科の用語を使って説明でき るかを見る。
④「地震について学校で習いましたか。地震がどうして起こ るか説明してください」	
■「水の循環」カード(13)(高学年・中学生)	
①「水の流れについて説明してください」	・小学校高学年・中学生向きの設問。
②「私たちが飲む水は、どこからきていると思いますか」	
③「雨が降らなかったら、地球はどうなると思いますか」	
④「太陽がなかったら、どうなると思いますか」	
■「蝶の一生」(14)(高学年・中学生)	
①「これは何ですか」	
②「はい、蝶ですね。蝶の一生について話してください」	



「これで終わりです。どうもありがとうございました」

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

■基礎タスク■	
評価項目	評価
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に☑
■「教室」カード (1)	
①「ここはどこですか」 (場所の認識)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②「この部屋に何がありますか」 (モノの存在)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③「先生の机はありますか」 (モノの所在)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④「では、先生のいすは？」 (ある/いるの選択)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑤「先生はいますか」 (動詞の否定)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑥「では、子どもは？」 (動詞の否定)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑦「ペンはどこにありますか」 (存在の位置)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑧「時計はありますか」 (ある/いるの選択)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑨「今、何時だと思えますか」 (時刻) *学習済みの子どものみ評価	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「スポーツ」カード (2)	
①「スポーツ(運動)が好きですか」 (好き・嫌い)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②「どんなスポーツ(運動)ができますか」 (可能表現の理解)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③「(スポーツ名)は？」 (可能表現の選択)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④「(スポーツ名)をしたことがありますか」 (過去の経験)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
⑤「〇〇と〇〇と、どちらが好きですか」 (比較)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「日課<起床><登校><就寝>」カード (3)	
①「今朝、何時に起きましたか」 (時刻、過去の動作)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
②「それから何をしましたか」 (過去の動作)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③「いつも何時ごろ寝ますか」 (習慣的動作)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④「家に帰ってから、いつもどんなことをしますか。 寝るまでのことを話してください」 (継起的動作)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
評価の目安	評価結果
<input type="checkbox"/> 正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切	/18 %
<input type="checkbox"/> 無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答	(/ %)
※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。	途中でやめたり、 質問数が異なった場合

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

■対話タスク■	
評価項目	評価
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/>
■「先生に質問」カード(4)A,B	
(4)A ① 先生に許可を求める	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
(4)B ① 友だちに依頼する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「新しい先生」カード(5)	
① 自己紹介をする	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 質問1	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 質問2	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「友達を誘う」カード(6)	
① 会話を切り出す	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 誘う	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 時間、場所の取り決め	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
④ 会話をしめくくる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「キャッチボール事件」カード(7)	
① 起こったこと／してしまったことを伝える	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 謝る	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

評価の目安	評価結果
<input type="checkbox"/> 正答：質問の意味を理解し、返答が自然で適切 <input type="checkbox"/> 無回答：質問が理解できない、返答が不適切、無回答 ※文法上、語彙上の誤用があっても、ここでは減点とはしません。 p.35の質的評価の「文法的正確度」や「語彙」で評価します。	/11 % (/ %) 途中でやめた場合

名前 _____ (男・女) 学年(所属) _____ 年 月 日

■認知タスク■	
評価項目	採点/評価
	<input type="checkbox"/> 正答 <input type="checkbox"/> 無回答 <input type="checkbox"/> に☑
■「お話」カード (8)	
① 話の展開1(はじめの部分)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 話の展開2	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 話の展開3(終わりの部分)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「消防車」カード (9)	
① 消防車・はしご車の働き・役目を話す	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 2つを比べて、働きについて共通点・相違点を説明する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「キャッチボール事件の報告」カード (10)	
① 事件の前(何をしていたか)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 事件(何が起きたか)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 対処(謝ったこと)	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「環境問題」カード (11)	
① 地球が泣いている理由を述べる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 対策(問題解決)の意見を述べる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 温暖化の要因について説明する *中学生のみ評価対象	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
■「地震」カード (12)	
① 地震の経験について述べる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
② 緊急事態の対策について意見を述べる	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
③ 地震の仕組みについて説明する *中学生のみ評価対象	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

DLA<話す> 《質的評価》		
話の内容とまとめ		
基礎・対話タスク達成度	課せられたタスクがこなせる	5 3 1
認知タスク達成度	内容が豊富でまとめのある話、説明、理由、意見等が言える	5 3 1
文・段落の質		
文の質	自分で単文が作れる	5 3 1
段落の質	単文ばかりでなく、複文を使い、段落を構成できる	5 3 1
文法的正確度		
文法的正確度	正しい文法で話すことができる	5 3 1
語彙		
日常語彙	身近な日常語彙が使える	5 3 1
語彙の質 (教科学習語彙)	話題や内容に相応しい語彙を選んで、正しく使うことができる (教科学習語彙を含む)	5 3 1
発音・流暢度		
発音・イントネーション	自然な発音やイントネーション、だれが聞いてもわかる	5 3 1
流暢さ	やり取りが自然でなめらかである	5 3 1
話す態度		
話す態度	自分から進んで発言し、会話をリードできる	5 3 1
合計⇒		/10=平均⇒

ステージ	話の内容・ まとめ	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度
6	□年齢相応の教科内容 と関連した認知タスク がこなせる	□まとまった話が1人 でできる	□文法的正確度が高い	□年齢相応の教科学習 語彙が使える	□発音が自然で、流暢 度が大変高い	□自分から進んで発言 し、会話を自らリード できる
5	□年齢相応の教科内容 と関連した認知タスク がある程度こなせる	□ある程度まとまった 話ができる	□文法的正確度がある 程度高い	□教科学習語彙がある 程度使える	□発音が自然で、流暢 度が高い	□様々な会話に積極的 に参加することができる
4	□対話タスクがこなせ る	□文を生成し、ある程 度連文ができる	□連文レベルで誤用が ほとんど目立たない	□日常語彙が使える	□発音が自然で、流暢 度がある	□聞かれた質問に答え ることができる
3	□対話タスクがある程 度こなせる	□単文レベルの応答が できる	□単文は生成できる が、助詞や活用などの 誤用が目立つ	□身近な日常語彙が使 える	□流暢度が低い	□聞かれた質問にある 程度答えることができ る
2	□基礎タスクがある程 度こなせる	□二語文	□語順が乱れ、 活用が不正確	□基礎語彙が使える	□流暢さなし	□定型表現や知ってい る単語でコミュニケーション をとろうとする
1	□基礎タスクの質問に いくつが答えられる	□一語文	□単語レベル	□わずかな基礎語彙が 使える	□流暢さなし	□ジェスチャーや表情 でコミュニケーション をとろうとする

第4章「DLA〈読む〉」

DLA〈読む〉概要

(1) 目的

- ・教科学習言語能力の育成のためには「読書力」の育成が重要となります。
- ・「読書力」とは、まとまりのある文章を読んで理解する「読解力」、文章をよりよく理解するために児童生徒が使用する読解ストラテジー（方略）や、文字・単語・文の読みの流暢さを表す「読書・音読行動」、そして本や読書への関わりや態度を示す「読書習慣・興味・態度」の3つの面からなる力を指します。
- ・DLA〈読む〉では「読書力」を測ります。このDLA〈読む〉を通して、多角的に読書力を測ることで指導のヒントを得ると同時に、児童生徒が本に興味を示し、読書が好きになるきっかけを作ることを目指しています。

(2) 対象

- ・DLA〈読む〉は、会話の流暢度があり、低学年では文字の習得が始まっている児童、高学年、中学生では短いまとまりのある文章が読めるようになっている児童生徒を対象とします。
- ・例えば、学齢期の途中で来日し、高学年であっても日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

(3) 方法

- ・まず、対象となる児童生徒が読めそうなテキストを、別冊資料の「DLA〈読む〉レベル別テキスト」から一つ選びます。
- ・そして、そのテキストに対応したDLA〈読む〉実践ガイド（本章のp42-62）にそってテキストを読み、評価者との一対一での対話を通して、内容をどの程度理解しているかを測ります。

(4) 構成

- ・DLA〈読む〉は、次の4つからなっています。
- ①「DLA〈読む〉レベル別テキスト」（別冊資料）
7つのテキストがあります。児童生徒の年齢、滞在年数、日本語レベルを考慮しつつ、児童生徒主体で選択します。
- ②「DLA〈読む〉実践ガイド」（p42-62）
7つのレベル別テキストに対応したDLA〈読む〉実施の手引きです。実施者はここに書かれている手順、声かけ・発問例に従って進めます。
- ③「DLA〈読む〉診断シート」（p63-71）
DLA〈読む〉を実施したあと、採点・評価に使用します。
- ④JSL評価参照枠「読む」（p72）
採点・評価で診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「読む」に照らし合わせて、ステージを決定します。

(5) 実施の前に

用意するもの

- ・ **DLA** 〈読む〉の実施には以下のものを使用します。
 - ・ 選択したテキストに対応した**DLA** 〈読む〉実践ガイド（p42-62）
 - ・ 対象児童生徒が読めそうなテキスト2～3冊（別冊資料から選ぶ）
（テキストを選ぶ基準は下記の【テキストの対象年齢】を参照）
 - ・ 録音（録画）機器（ICレコーダー、MD、テープレコーダーなど）

使用テキストの選択方法

- ・ **DLA** 〈読む〉では、以下の計7冊のレベルの異なるテキストを別冊資料として添付しました。下の【テキストの対象年齢】の表を参考にし、児童生徒の現年齢、滞日期间や入国年齢、興味や既有知識、その他の条件を考慮した上で最初に手にするテキストを選びます。

【テキストの対象年齢】

レベル	内容	年齢枠					別冊 頁番号	実践 ガイド 頁番号
		6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-12歳 (高学年)	12- 15歳+ (中学生)		
A (就学前児童用)	「えんそくのおとしもの」	○	○				5	42
B (小学1年生 前半用)	「ことりと木のは」	○	○	○			21	45
C1 (1年生後半用)	「花いっぱいになあれ」	●					29	48
C2 (2年生用)	「あつまれ、楽器」		●	○		○	45	51
D (中学年用)	「貝がら」			●	○	○	51	54
E (高学年用)	「アニメーションとわたし」				●	○	63	57
F (小学校終了～ 中学校前半用)	「自然を守る」				○	●	75	60

- ・ 実践ガイドに沿って、まず、表中の黒丸（●）のテキストを児童生徒に手渡し、子ども自身が難しいと言った場合に、下のレベルのテキストに変更します。
- ・ 黒丸（●）で示したテキストが難しいと初めからわかっている場合は、その下のレベルのテキストからスタートしてもかまいません。
- ・ レベルC1とC2は、どちらも小学校低学年用の教材ですが、物語文か説明文かというテキストタイプの違いがあります。小学2～4年生の子どもに対して、このレベルCのテキストを使用する場合は、子どもの好みに合わせてどちらかを選んでください。
- ・ 但し、丸（○）のついていないレベルのテキストは、認知レベルやテーマが適していないため使用すべきではありません。例えば、中学生でレベルDのテキストが読めるだけの力がまだ身につけていない児童生徒には、**DLA** 〈読む〉は使用できません。
- ・ 尚、この7つのテキストのうち、レベルAのテキストは本事業のための書き下し、BからFのテキストは、以前の国語教科書（光村図書出版株式会社）に掲載された作品を集めた『光村ライブラリー』（2002、光村図書出版株式会社）から選んだものです。詳しい出典、作者等については、別冊資料の最後のページをご参照ください。

テキスト中の漢字のルビについて

- ・ レベルB、Cは全ての漢字に、レベルDでは中学年での新出漢字に、レベルE、Fでは高学年での新出漢字にルビが振られています。もし、既習漢字の読みの力を測定したい場合は、ルビを減らしてもかまいません。ただし、漢字の負担から、読みへの抵抗感が強まらないように配慮する必要があります。

(6) 実施手順

- ・実践ガイドにしたがって、「読むまえに」「読みましょう」「話し合いましょう」「読んだあとで」の順に進めます。

① 読むまえに

興味・関心

- ・1～2つのキーワードを確認し、テーマについて児童生徒の関心を引き出します。

予測・推測

- ・レベルに応じて、絵や挿絵を見たり、テキストの最初の部分を読み聞かせて、内容を予測・推測させます。

② 読みましょう

読み聞かせ・音読・黙読

- ・実施者と一緒に1冊のテキストを最後まで読みます。実践ガイドに従って、実施者が読み聞かせをし、その後に児童生徒が音読、あるいは黙読をします。
- ・音読、黙読の際は、児童生徒が漢字の読み方や語彙の意味を質問した場合にはすぐに答えます。間違って読んだ場合でも訂正しません。

③ 話し合いましょう

あらすじ・要旨の口頭再生

- ・テキストを閉じて、読んだ内容についてあらすじや要旨を口頭で再生させます。
- ・あまり再生できない場合でも、「一緒に最初から思い出してみよう」「初めに誰が出てきましたか」「それから?」「最後にどうしましたか」等と声かけをし、児童生徒の発話を最大限に引き出します。
- ・再生ができない場合に児童生徒にもう一度テキストを見せることはお勧めしません。理解したことを再生するのではなく、読んでしまうケースが多いためです。(特にレベルD以下のテキスト)

理解を深めるやりとり・解釈・感想・意見

- ・口頭再生に含まれなかった情報について追加質問をしたり、理解を深めるための質問をしたりします。また、内容についての感想や意見、その意見の理由や根拠を聞きます。
- ・レベルE、Fでは、この時点で再度テキストを見せてもかまいません。

④ 読んだあとで

ふり返し・読書習慣に関する質問

- ・やりとりをふり返し、児童生徒の頑張りを認めた上で、普段の読書習慣や読書・言語環境、読書についてどのように感じているか話し合います。

読みへの内省

- ・高学年や中学生の場合は自分自身がどのように読んで、どのように理解しているかということに対する内省を促します。

(7) 実施上の留意点

- ・話し合ったり、励ましたりしながら、児童生徒の理解を深め、発話をできるかぎり引き出します。
- ・途中で児童生徒の読みや話を遮ったり、否定したり、訂正してはいけません。
- ・質問されたとき以外は答えを教えません。質問されたときはわかりやすく答えます。
- ・良いところを見つけて、積極的に褒めます。
- ・この時間が児童生徒にとって楽しい読書の時間となるように心がけます。
- ・DLA〈読む〉では、日本語が出てこない場合に母語で答えさせたり、絵や図表を示して答えさせたりしてもかまいません。児童生徒の話す内容を録音して、測定終了後に、母語話者に聴いてもらうとよいでしょう。
- ・測定中に診断シートに評価を記入してはいけません。正確な評価、記録のために録音をしましょう。

(8) 評価の方法

- DLA〈読む〉が終了したら、採点・評価にうつります。

用意するもの

- DLA〈読む〉の採点・評価には以下のものを使用します。
 - 録音（録画）したデータ
 - 読んだテキストに対応した**DLA〈読む〉診断シート**（本章p63-71）
※テキストレベルC2とDの診断シートは、対象児童生徒の年齢枠に応じて、2つの種類が準備されているので、該当するほうを使用。
 - JSL評価参照枠「読む」

評価手順

- 録音したデータを聞きながら、読んだテキストに対応する診断シート(p63-71)に示された評価項目について、5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。判断に揺れる場合は、2点、4点をつけてもかまいません。
- 総合得点の平均点を算出します。
- それぞれの診断シートに示されたテキストレベルと算出した評価点を、JSL評価参照枠「読む」(p72)に照らし合わせ、また、普段の学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。

診断シートの評価項目とJSL参照枠との関係

- 診断シートには、テキストレベルと年齢枠に応じた評価項目が記載されています。診断シートの評価項目とJSL評価参照枠「読む」との対応関係は下記の通りです。

JSL評価参照枠 (読む)	年齢枠・テキスト 診断シートの 評価項目	6-10歳 (低・中学年)		10-15歳+ (高学年・ 中学生)
		A	B, C, D	C, D, E, F
読解力	順序・流れ／構成(あらすじ)	○	○	
	人物・場面(様子)／描写・説明	○	○	
	感想	○	○	
	内容理解と要約			○
	要旨・主題の解釈			○
	要旨・主題に対する意見			○
読書行動	予測・推測	○	○	○
	音読のつまずきへの対処		○	○
	自分の読みへの内省			○
音読行動	文字と音の対応	○		
	カタカナ語の識別と読み	○		
	特殊読み	○		
	音読の正確さ	○	○	○
	区切り方		○	○
	表現・イントネーション		○	○
漢字・ 語彙	あらすじ再生での重要な語彙の使用度	○	○	○
	語彙や漢字の読み		○	○
読書 興味 態度	読書嗜好	○	○	○
	読書の質と量	○	○	○

(9) 備考

テキストの代用について

- **DLA**〈読む〉の実施方法、評価方法に慣れてくれば、この7冊のテキストだけでなく、それぞれのレベル（AからF）に該当する市販のテキストで代用しても構いません。それぞれのレベルの示す大まかな特徴は、下記のとおりです。

レベル	特 徴
A	就学前児童向けテキスト。絵のみでもストーリーが推測できる絵本。文、単語の繰り返しによって時系列に話が進むもの。1ページに1～3文程度。全体で80～350文字程度の長さ。
B	小学1年生前半の児童向けテキスト。ごく簡単で身近なストーリーの絵本や挿絵が多い物語文。1ページに3～6文。全体で300～800文字程度の長さ。
C1	小学1年生後半の児童向けテキスト。簡単なまとまり(ストーリー)のある挿絵や写真付きの物語文。全体で1000～2600文字程度の長さ。
C2	小学2年生向けテキスト。身近なテーマで、簡単なまとまり(構成)のある挿絵や写真付き説明文。全体で500～1000文字程度の長さ。
D	小学校中学年向けテキスト。登場人物、場面、心情の描写が加わった物語文や、因果関係に関する説明が加わった社会・理科的内容の説明文。やや長めで章立てがある。
E	小学校高学年向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。
F	小学校終了から中学校前半向けテキスト。子どもを対象とした文学作品や、伝記、教科語彙を含む自然や社会的なテーマの説明文。主にEよりも語彙や漢字の難易度が高い。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを〇〇さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を決める。

・テキストを子どもにわたす。



これは『えんそくのおとしもの』というお話です。はじめは私が読んで、〇〇さんには、ここ（12ページはじめ）から読んでもらいます。

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「えんそく」に行ったことがありますか。
「えんそく」は好きですか。／楽しかったですか。

- ④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの拾い読みの段階の低学年児童に適している（テーマが認知発達レベルに適さないため、中学年以上（特に高学年以上）には原則として使用しない）。この段階の児童は読みながら内容を理解することは難しいと考えられるが、絵を見ながら、本の楽しさを感じ、流れを想像できるとよい。「読みましょう」では、後半を子どもが読むことになっているが、子どもの様子をみながら、最後のほうと一緒に読んでよい。また、逆に意欲があり、「1人で読みたい」と言う子どもに対しては、自分で読むようにすすめてかまわない。「話し合しましょう」でも、じっくり待って、はげましたり、認めたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スモールステップのサポートを心がける。

また母語での読みの力が高く、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選んだ子どもの場合は、音読の流暢度やあらすじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合は、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもよい。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

- ① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。
 ・テキストを子どもに見せながら、初めから10ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話が聞きます。しっかり聞いていてください。

- ② 音読：続きを子どもが読む。

・12ページの初めからテキストの最後までを子どもが指で押さえながら読む。



これから〇〇さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。はい、どうぞ。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
 (特に訂正や指導はしない)

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

- ① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
 実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
 重要な内容をふまえて、まとめて言うてもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. きょうは、(ももちゃん)えんそく。
- 2. すいとうがおちちゃった。
- 3. 「これはなんだろう」と、くまさん。
- 4. サンドイッチがおちちゃった。
- 5. 「これはなんだろう」と、うさぎさん。
- 6. チョコレートもおちちゃった。
- 7. 「これはなんだろう」と、りすさん。
- 8. (おべんとうの時間、リュックサックの中には)なにもない。
- 9. くまさんとうさぎさんとりすさんが、「おとしものだよ。」とはしてきた。
- 10. みんなでいっしょに「いただきます。」

- ② 理解を深めるやりとり：「絵」を見て、話し合いながら、理解を深める。
 ・再生が難しかった場合、「文字」ではなく、「絵」を見ながら、順序にそって、ストーリーを追い、
 その中で、子どもの発話を引き出す。

③ 文字と音の認識：文字と音との対応ができていないか再度、確認する。

・9ページをひらいて、次の質問をする。



「くまさん」という言葉はどこにありますか。
「は」(wa)という字はありますか。どこにありますか。

・10ページをひらいて、次の質問をする。



「サンドイッチ」という言葉はどこにありますか。

・14ページをひらいて、次の質問をする。



「へ」(e)という字はありますか。どこにありますか。

④ 解釈・感想：話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。 どこが一番面白かったですか。
どうしてそこが一番面白かったですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
〇〇さんはとても上手に／頑張って〇〇できましたね。〇〇がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に〇〇語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど）が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。（わかれば）

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



〇〇語ではよく本を読みますか。
〇〇語でどんな本を読みますか（絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など）
一週間にどのくらい〇〇語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを〇〇さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『ことりと木のは』というお話です。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・22ページ(1ページ目)の1～2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。22ページ目を声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ⇨ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った低学年児童 ⇨

レベルAのテキストへ

・「読めない」と言った中学年児童の場合はDLA(読む)を終了する。

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「とり(ことり)」を知っていますか。見たことがありますか。
「木のは」を知っていますか。

- ④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、拾い読みが安定してできるようになっている子どもに適している(テーマが認知発達レベルに適さないため、高学年以上には原則として使用しない)。まだ文字の拾い読みの段階では読みながら内容を理解することが難しいため、絵や写真で話の流れが予想できる下のレベルのテキストのほうが適しているかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、子どもの様子を気をつけて観察し、途中でテキストを変えてもよい。また、最後まで読めたとしても、あらずじ再生が難しい場合は、じっくり待って、はげましたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スモールステップのサポートを心がける。

母語での読みの力が高く、日本語学習期間が短いためにこのテキストを選んだ子ども(主に中学年)の場合は、音読の流暢度やあらずじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合は、最後に母語であらずじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

- ① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。
 ・テキストを子どもに見せながら、初めから25ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話か聞きます。しっかり聞いてください。

- ② 音読：続きを子どもが読む。
 ・26ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから〇〇さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からないことばがあったら聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
 (特に訂正や指導はしない)
 ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

- ① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
 実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
 重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. ことりのおかあさんが病気です。
- 2. ことりは、えさをさがしに行きました。
- 3. たかがことりとびかかりました。
- 4. ことりは「たすけて。たすけて。」と(にげながら)さげびました。
- 5. 山の木たちは、いっせいにえだをゆすりました。
- 6. 木のはがいっぱいおちてきました。
- 7. たかは、ことりか木のはか分からなくなりました。
- 8. ことりは、とんでいきました。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. はじめ、ことりは何をしに行きましたか。 | 1. 木のみをとりに行った。 |
| 2. ことりはどうして木のみをとりに行きましたか。 | 2. おかあさんが病気で、おかあさんにあげるため。
(早く元気になってほしかったから。) |
| 3. 山の木たちはどうやってことりをたすけましたか。 | 3. えだをゆすって、木のはをおとして、
ことりか木のはがわからなくした。 |

その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、また自分の体験と結びつけてどう感じたか話し合う。



このお話は面白かったですか。 どこが一番面白かったですか。
どうして(そこが一番面白かった)ですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書ではない本)を読みますか。
自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
どんな本(お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか。(絵本、図鑑、物語、説明の本、教材など)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを〇〇さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『花いっぱいになあれ』というお話です。〇〇さんは、ここ（37ページの最後から3行目を指して）から読みます。どうですか。読めそうですか。

・1ページ目（30ページ）の2文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ（4行目）までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ☞ そのままこの実践ガイドにそって進む。

「読めない」と言った子ども ☞

レベルBのテキストへ

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「風船」を知っていますか。
「花のたね」を知っていますか。

- ④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。
これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、単語や文節で区切って読めるようになっている児童に適している。長さは、レベルC2のテキストよりも長い、物語文であり、時間の流れに沿ってストーリーが展開するため、低年齢の子どもにとってはレベルC2よりも内容理解が易しい場合が多い。（テーマが認知発達レベルに適さないため、高学年以上には原則として使用しない。）

母語での話す力のほうが強い児童に対しては、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

- ① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。
 ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから37ページの7行目まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話が聞きます。しっかり聞いてください。

- ② 音読：続きを子どもが読む。

- ・37ページの8行目から最後までを子どもに読ませる。



これから〇〇さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からないことばがあったら聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

- ・実施者は音読の区切り方やつまづいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
 (特に訂正や指導はしない)
 ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

- ① あらすじ再生：テキストをとして、子どもがテキストの内容を再生する。
 実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

- ・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
 重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. 学校の子どもたちがふうせんにお花のたねをつけてとばしました。
- 2. まっかなふうせんが下りたところに、子ぎつねのコンが、いいゆめをみて、ひるねをしていました。
- 3. (目をあけると)まっかな花がさいていました。
- 4. コンはねっこをあなにうめました。
- 5. つぎの朝、赤い花は小さくしぼんで、たおれていました。
- 6. それから雨が毎日ふって、花のさいていたあとに、めがのびました。
- 7. ある日、大きな金色の花をさかせました。
- 8. 学校の子どもたちが、赤いふうせんにひまわりのたねをつけてとばしたのです。
- 9. 秋にはびっしりたねがみのりました。
- 10. コンはひまわりのたねを食べて、ゆめのことを思い出しました。
- 11. つぎの年、野原じゅうに、大きな金色のひまわりの花をさかせました。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問	解答例
1. コンが見つけたまっかな花は何ですか。	1. ふうせん
2. まっかな花がたおれた時、コンはどんな気持ちでしたか。	2. とても悲しかった。
3. まっかな花がたおれた後、どうして、金色の花がさきましたか。	3. コンが紙づつみを赤い花のたねだと思ってうめて、雨が降って、その種から花がさいた。／学校の子どもたちがふうせんにひまわりの種をつけて飛ばしたから。
4. 金色の花をみて、たねを食べたとき、コンはどう思いましたか。	4. あのときみたいい夢がこの金色の花がさいたゆめで、ゆめで食べた味だと思った。

その他の質問(自由)

③ 解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったですか。 どこが一番面白かったですか。
 どうして(そこが一番面白かった)ですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
 ○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本（教科書ではない本）を読みますか。
 自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
 おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
 どんな本（お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど）が好きですか。
 好きな本の名前を教えてください。（わかれば）

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
 ○○語でどんな本を読みますか（絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど）
 一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。はじめは私が読んで、そのあとを〇〇さんに読んでもらいますね。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



これは『あつまれ、楽器』というお話です。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・1ページ目(46ページ)の3文を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



はじめだけ少し読んでみて、決めましょう。ここ(3行目)までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ⇨ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った中学年以下の児童 ⇨ [レベルBのテキストへ](#)

・「読めない」と言った高学年児童⇨DLA〈読む〉を終了する。

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。



「楽器(がっき)」を知っていますか。どんな楽器を知っていますか。「フライパン」「わゴム」「ストロー」を知っていますか。

- ④ 予測：テキストの絵を見せ、テーマについて予測させる。



絵を自由に見ていいですよ。これはどんなお話だと思いますか。

メモ：

このテキストは、ひらがな、カタカナの習得を終え、単語や文節で区切って読めるようになっている児童に適している。長さは、レベルC1のテキストよりも短い、説明文であり、構成の理解が求められるため、低年齢の子どもにとってはレベルC1よりも内容理解が難しい場合が多い。小学2年生用教材だが、滞日期間の比較的短い高学年の読書力診断にも応用可能である。このテキストを選んだ高年齢の児童の場合、母語での読む力・話す力のほうが高いケースが多い。

母語の読む力が発達している子どもは、音読の流暢度や日本語でのあらすじの再生力が不十分であっても、内容をよく理解できている場合もある。その場合、最後に母語であらすじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

- ① 読み聞かせ：最初は実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。
 ・テキストを子どもに見せながら、実施者が初めから47ページの最後まで声にだして読む。



ではこれからいっしょにこの本を読みましょう。はじめは私が読みますね。後でどんなお話か聞きます。しっかり聞いていてください。

- ② 音読：続きを子どもが読む。

・48ページの初めからテキストの最後までを子どもに読ませる。



これから〇〇さんに読んでもらいます。ここから最後まで声に出して読んでください。もし分からないことばがあったら聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では始めましょう。

・実施者は音読の区切り方やつまずいた時にどのように対処するかということに注意しながら聴く。
 (特に訂正や指導はしない)
 ・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

- ① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。
 実施者は「それから？」などと声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。はい、どうぞ。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。
 重要な内容をふまえて、まとめて言ってもよい。下記のようなテキスト通りの言い方でなくともよい。

あらすじチェック

- 1. フライパン、わゴム、ストローは三つとも楽器としてつかうことができます。
- 2. 楽器は音の出し方で三つのなかまに分けられます。
- 3. 一つはたたいて音を出す楽器です。
- 4. たいこや木きん、フライパンもこのなかまです。
- 5. もう一つは糸をはじいたりこすったりして音を出す楽器です。
- 6. ギターやバイオリン、わゴムもこのなかまです。
- 7. さいごは、いきをふきこんで音を出す楽器です。
- 8. ふえやラッパ、ストローもこのなかまです。
- 9. 楽器を作って、音楽会をひらいてみましょう。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

・再生した内容に次のような情報が含まれていなかった場合に質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|---|---|
| <p>1. フライパンとわゴムとストローは、同じことに使います。何に使いますか(何になりますか)。</p> <p>2. 楽器は三つのなかまに分けられます。どんななかまですか。</p> <p>3. この三つのなかまは、どこ(何)がちがいますか。</p> <p>その他の質問(自由)</p> | <p>1. 楽器</p> <p>2. たいこや木きん、ギターやバイオリン、ふえやラッパのなかま。／たたいて音を出すなかま、糸をはじいたりこすったりして音をだすなかま、いきをふきこんで音を出すなかま。</p> <p>3. 音の出し方</p> |
|---|---|

③ 解釈・感想：お話を読んで、また、自分の体験と結びつけて、感じたことを話し合う。



このお話は面白かったですか。 どこが一番面白かったですか。
 どうして(そこが一番面白かった)ですか。 思い出したことや考えたことはありますか。

・高学年には、次の質問をする。



このお話を書いた人が伝えなかったのはどんなことでしょうか。 どうしてそう思いますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
 ○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

・高学年の場合は、自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続ける など)
 わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵をみる、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使う など)
 ○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書ではない本)を読みますか。
 自分で読むのと、お話を聞くのとどちらが好きですか。
 おうちの人に○○語／日本語の本を読んでもらいますか。
 どんな本(お話の本、絵本、クイズ、めいろ、ずかん、マンガなど)が好きですか。
 好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
 ○○語でどんな本を読みますか(絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど)
 一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。



はじめは私が読んで、〇〇さんにはここ(56ページ)から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・1ページ目(52ページ)冒頭5行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。



少し読んでみて、決めましょう。
ここ(52ページの5行目)までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。



最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ⇨ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った高学年児童 ⇨ **レベルC2のテキストへ**

・「読めない」と言った中学年児童 ⇨ **レベルC1もしくはレベルC2のテキストへ**

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・次のことばの理解を確認し、知らない場合は教える。60ページの絵を見せてもよい。



これは『貝がら』というお話です。「ぼく」と「中山君」のお話です。
「貝がら」を知っていますか。見たことがありますか。

- ④ 予測：テキストを子どもに見せながら、53ページの12行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。



では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、次のように質問をする。



ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

- ⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから55ページの最後まで実施者が声にだして読む。



ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：このテキストは、ある程度の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適している。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、疲れていないか気をつけて観察し、途中でテキストを変えてもかまわない。また、最後まで読めたとしても、あらずじ再生が難しい場合は、はげましたり、待ったり、子どもの発話をつなげたりするなど、スモールステップのサポートを心がける。

また母語での読みの力が高く、日本語の理解力と産出力に大きな差がある子どもがこのテキストを選んだ場合は、最後に母語であらずじ再生を求めたり、話し合ってもかまわない。最後に子どもが「読めた」「話せた」という達成感をえられるようサポートする。

読みましょう...

① 音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから〇〇さんに読んでもらいます。〇〇さんは、声に出して読むのと、黙って心の中で読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話の内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して☞ 56ページ1行目から57ページの12行目までを音読で、57ページ13行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、〇〇さんがどんなふうに進んでいるか知りたいので、ここ(56ページの1行目)からここ(57ページの12行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・57ページの12行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して☞ 56ページ1行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(56ページの1行目)から最後まで声に出して読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① あらすじ再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。 実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『あらすじチェック』を参考に、どのくらい理解できているかをチェックする。

あらすじチェック

- 1. (4年生に進級して)ぼくのとりの席に(転校してきた)中山君がすわるようになった。
- 2. 中山君は自分のほうからは何も話しかけてくれなかった。
- 3. 中山君は(ぼくとだけではなく)誰とも口をきかない(だまりこんでばかりいる)。
- 4. 図工の時間、中山くんがあまりにすばらしい海辺の景色の絵をかいていた。
- 5. 中山君は「前に住んでいた所」と自分のほうから説明してくれた。
- 6. 中山君の言葉に変ななまりがあり、女の子たちが笑った。
- 7. 中山君は一言もしゃべらなくなってしまった。
- 8. ぼくが病気になって欠席したとき、中山君はみまいに来てくれた。
- 9. 中山君がお母さんにあずけた箱には、いろいろな色や形の美しい貝がらがぎっしり入っていた。
- 10. ぼくは、今度こそ中山君と仲良しになれると思った。

② 理解を深めるやりとり：話し合いながら、理解を深める。

- ・再生した内容に以下のような情報が含まれていなかった場合に質問する。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。

質問

解答例

- | | |
|---|--|
| <p>1. はじめの頃、ぼくは中山君のことをどう思っていましたか。</p> <p>2. 中山君は、なぜいつもだまっていますか。</p> <p>その他の質問(自由)</p> | <p>1. 話さないことに腹が立った／誰とも話さないから不思議だった。</p> <p>2. 自分の言葉のなまりがはずかしかったから。／笑われたくないで、しゃべらないように用心していた。</p> |
|---|--|

③ 解釈・感想：お話を読んで、どう感じたかを質問をして確かめる。



- ・中山君はどうして貝がらを持ってみまいに来たのだと思いますか。
- ・どうして「今度こそ中山君と友達になれると思った」のでしょうか。
- ・もし、あなたがぼく／中山君だったら、どうしますか。どう感じますか。
- ・このお話はどこが面白かった／大事だと思いましたか。それはどうしてですか。



- ・高学年以上には、次の質問をする。

このお話を書いた人が伝えたかったのはどんなことでしょうか。どうしてそう思いますか。

読んだあとで...

① ふり返し：全体をふり返し、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
○○さんはとても上手に／頑張って○○できましたね。○○がよくわかっていますね。

- ・高学年以上の場合、自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続ける など)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵をみる、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使う など)
○○語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でのどのようにしたか)

② 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書の時間、図書館の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
この1学期間(1年間、○休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、こわい話、マンガなど)が好きですか。
好きな本の名前を教えてください。(わかれば)

- ・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



○○語ではよく本を読みますか。
○○語でどんな本を読みますか(絵本、図鑑、物語、説明、教材、インターネットなど)
一週間にどのくらい○○語で本を読みますか。



ではこれからもたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。

これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。

はじめは私が読んで、〇〇さんにはここ(68ページ2行目)から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・1ページ目(64ページ)冒頭の3行を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。

少し読んでみて、決めましょう。
ここ(64ページの3行目)までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。

最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ⇨ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ⇨ [レベルDのテキストへ](#)

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。

これは『アニメーションとわたし』というお話です。「手塚治虫」という人を知っていますか。〇〇さんはマンガが好きですか。この人は「マンガの神様」と呼ばれている人です。このお話はその「マンガの神様」がマンガやアニメについて書いたものです。

- ④ 予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから65ページの2行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。

では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。

ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

- ⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから68ページの2行目まで実施者が声にだして読む。

ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：このテキストは、語彙もある程度増え、一定の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読める子どもに適している。まだ単語や文節で区切って読む子どもは、最後まで読み続けることが難しいかもしれない。そのような子どもがこのテキストを選んだ場合、注意深く観察し、途中でテキストを変えてもかまわない。また、最後まで読めたとしても、あらずし再生が難しい場合は、じっくり待って、はげましたり、子どもの発話をつなげたりするなど、スモールステップのサポートを心がける。

また語彙や漢字は習得途上であっても、意欲的にこのテキストを選ぶ子どもがいるかもしれない(比較的滞日期間が浅いが、母語での読書力が身につけている子どもなど)。そのような場合は、わからない語彙や漢字について、子どもが質問しやすい雰囲気を作り、質問にはしっかり答えるようにする。

読みましょう...

① 音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから〇〇さんに読んでもらいます。〇〇さんは、声に出して読むのと、黙って(心の中で)読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話の内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して：68ページ3行目から69ページの5行目までを音読で、70ページ1行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、〇〇さんがどんなふうに進んでいるか知りたいので、ここ(68ページの3行目)からここ(69ページの5行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・69ページの5行目まで読み終えたら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して：68ページ3行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(68ページの3行目)から最後まで声に出して読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。
・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① 要点の再生：テキストをとじて、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

・下の『要約チェック』を参考に、重要な内容・構成をどのくらい理解しているかをチェックする。

要約チェック

時間の流れとエピソード：筆者とアニメーション

- 1. 小学生の頃 ⇒ 動く漫画をノートに書いた
- 2. 初めてのアニメーション製作 ⇒ 百何十枚もの絵を撮影して、動画をつくった
- 3. 大人になってから ⇒ ディズニー作品などを覚えるほど見て、勉強
- 4. 本格的なアニメーション製作 ⇒ 「ある街角の物語」を6人の仲間をつくった
- 5. 日本で初めてのテレビ番組用アニメ「鉄腕アトム」の誕生

まとめ：アニメーションとは

- 6. 現実にはありえない世界を作り、夢をかきだててくれる
- 7. 見ることもだが、作ることがもっと楽しい
- 8. 苦しさを乗り越えて新しいものを作ったり、協力するという人生の大切なことを体験できる仕事

② 解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



アニメーションを作ることは大変なのに、どうして楽しいのでしょうか。
このお話で作者が伝えたかったことは何だと思えますか。どうしてそう思えますか。

・その他の質問をしてもよい。

③ 意見：内容・要旨について意見を述べる。



このお話は面白かったですか。どこが（どうして）面白かったですか。
作者が伝えたかったことに対して〇〇さんはどう思えますか。どうしてそう思えますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
〇〇さんはとても上手に／頑張って〇〇できましたね。〇〇がよくわかっていますね。

② 読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続ける など)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵をみる、声に出して言う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使うなど)
〇〇語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

③ 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書・図書館の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)
この1学期間(1年間、〇休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネットのサイトなど)をよく読みますか。題名を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



〇〇語ではよく本を読みますか。
〇〇語でどんな本を読みますか(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)
一週間にどのくらい〇〇語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

読むまえに...

- ① 手順の説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。

これから本と一緒に読みましょう。読み終わったら、どんなお話だったか話しましょう。

- ② テキスト選び：いっしょに読む本を選ぶ。

・テキストを子どもにわたす。

はじめは私が読んで、〇〇さんにはここ(79ページ8行目)から読んでもらいます。どうですか。読めそうですか。もう少しやさしい本にしますか。

・冒頭の2文(76ページ4行目まで)を音読させ、読み続けるかテキストを変えるかを子どもに選ばせる。

少し読んでみて、決めましょう。
ここ(76ページの4行目)までを声に出して読んでみてください。

・子どもが読むのを聞く。読み終わったら、もう一度、次のように質問をする。

最後まで読めそうですか。

・「読める」と言った子ども ☞ そのままこの実践ガイドにそって進む。

・「読めない」と言った子ども ☞ **レベルEのテキストへ**

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

・題名を読みながら、テーマ、作者について簡単に説明する。

これは『自然を守る』というお話です。自然や環境について考えたことがありますか。どんなことですか。(子どもの発言内容に対して)それはいいですね。

・写真と言葉について、簡単に説明する。

(80ページの写真) これは何でしょうか。木を食べる虫ですね。
(81ページの写真) これは何でしょうか。火事で、木が全部焼けてしまっていますね。
(85ページの写真) これは何でしょうか。稲(米)を食べる虫(害虫)ですね。

- ④ 予測：テキストを子どもに見せながら、はじめから77ページの6行目までを実施者が読んで聞かせ、その後にテキストを閉じて、話の続きを予測させる。

では、はじめから私が読みますね。よく聞いていてください。

・読み終わったら、もう一度、次のように質問する。

ここまで、どんなことが書いてありましたか。
では、この先、どんな話が続くと思いますか。

- ⑤ 読み聞かせ：続きを実施者が読み、子どもはテキストを見ながら聞く。

・テキストを子どもに見せながら、続きから79ページの7行目まで実施者が声にだして読む。

ではもう少し私が読みますね。しっかり聞いていてください。

メモ：

このテキストは、一定の長さのある文章を、句読点や意味のまとまりで区切りながら読め、比較的語彙も豊富で、社会的なテーマにも興味を持つようになってきている子どもに適している。

語彙や漢字は習得途上であっても、意欲的にこのテキストを選ぶ子どもがいるかもしれない(比較的滞日期間が浅いが、母語での読書力が身につけている子どもなど)。そのような場合は、わからない語彙や漢字について、子どもが質問しやすい雰囲気を作り、質問にはしっかり答えるようにする。

読みましょう...

① 音読：続きを子どもが読む。

・まず、音読と黙読とどちらが得意か確認する。



これから〇〇さんに読んでもらいます。〇〇さんは、声に出して読むのと、黙って心の中で読むのとどちらが好きですか。どちらのほうが、お話の内容がよくわかりますか。

* 黙読を選んだ子どもに対して：79ページ8行目から81ページの9行目までを音読で、81ページ10行目からテキストの最後までを黙読で読ませる。



では、〇〇さんがどんなふうに読んでいるか知りたいので、ここ(79ページの8行目)からここ(81ページの9行目)までは声に出して読んでください。その後は黙って読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・81ページの9行目まで読み終わったら、次のように合図する。



黙って読んでいいですよ。もし、今読んだところをもう一度、黙って読みたかったら、読み直してもいいですよ。

* 音読を選んだ子どもに対して：79ページ8行目からテキストの最後までを音読で読ませる。



では、ここ(79ページの8行目)から最後まで声に出して読んでください。分からない漢字やことばがあったら、聞いてください。後でどんなお話だったか聞きますね。しっかり読んでください。では、お願いします。

・実施者は音読速度、区切り方、つまづいたときの対処の仕方などに注意しながら子どもの音読を聴く。

・終わったら、声かけをする。



とても上手に／頑張って、読めましたね。

話しあいましょう...

① 要点の再生：テキストをとして、子どもがテキストの内容を再生する。

実施者は声かけをしつつ、子どもの話を最大限に引き出す。



ではこのお話はどんなお話でしたか。はじめてこのお話を聞く人にわかるように話してください。終わったら『終わりです』と言ってください。

要約チェック

現状	□1. 人間は自然を資源として利用
	□2. 人間の都合のいいように自然を変えて生活
問い	□3. この現状のままではよいのか
主張の根拠	事実 □4. 自然界のさまざまな生物たちはつりあいを保って生活
	つりあいが破れた例 □5. 風で木が倒れた→キクイムシが大発生→森を破壊→山火事→大洪水
	つりあいを人間が破った例 □6. イネの害虫を殺すために農薬をまいた→害虫の天敵のクモもいなくなった→農薬に強い別の害虫が増えた
例のまとめ	□7. 人間の活動が盛んになる→自然の破壊が進む→その結果、人間自身に不幸をもたらしている
筆者の主張	主張① □8. 人間は自然の資源を利用し、開発を進めながらも、自然を守って行く必要がある
	主張② □9. そのために、自然界の生物のつながりを正しく理解しておくことが大切
	主張③ □10. 自然を守ることは、人間自身のためである

② 解釈：話し合いながら、要旨について理解を深める。

・テキストを見せながら、次の質問をする。



たくさん／頑張って／上手にお話できましたね。今度は少し私が質問しますね。
この本を見ながら考えてもいいですよ。



人間が思いのままに自然の姿を変え、その資源を自分たちのものにしてしまっていていい
でしょうか。それはどうしてですか。
自然を守ることがどうして、人間自身のためになるのでしょうか。
このお話で作者が伝えたかったことは何だと思いますか。どうしてそう思いますか。

・その他の質問をしてもよい。

③ 意見：内容・要旨について意見を述べる。



〇〇さんは、自然の資源を利用し、開発を進めることについてどう思いますか。
作者が伝えたかったことに対して〇〇さんはどう思いますか。どうしてそう思いますか。

読んだあとで...

① ふり返り：全体をふり返り、良いところを見つけてしっかりほめる。



はい、これで終わりです。頑張りましたね。難しかったですか、簡単でしたか。
〇〇さんはとても上手に／頑張って〇〇できましたね。〇〇がよくわかっていますね。

② 読みへの内省：自分がどのように読んでいるかを意識させる。



では(内容で)わかりにくいところがあったら、どうしますか。
(読み返す、イメージする、具体例を考える、誰かに聞く、そのまま読み続ける など)
わからないことばがあったときはどうしていますか。(読み返す、絵をみる、声に出して言
う、推測する、絵を見る、誰かに聞く、そのまま読み進める、辞書を使う など)
〇〇語を使って考えたりしましたか。(した場合は例えばどの場面でどのようにしたか)

③ 読書習慣：本や本を読むことについて話し合い、読書への興味・関心を高める。



本は好きですか。よく本(教科書、マンガではない本)を読みますか。
いつ読みますか。(朝読書・図書館の時間、休み時間、放課後(うちで)など)
何のために読みますか。(楽しむ、新しい知識を得る、調べる(情報を集める)ため)
この1学期間(1年間、〇休みの間など)に何冊ぐらい本を読みましたか。
どんな本(伝記、歴史小説、物語、冒険もの、科学などの説明文、マンガ、インターネ
ットのサイトなど)をよく読みますか。題名を教えてください。(わかれば)

・母語での読みの力が高い子どもには、次のような質問をしてもよい。



〇〇語ではよく本を読みますか。
〇〇語でどんな本を読みますか(物語・小説、説明・情報文、教材、インターネット)
一週間にどのくらい〇〇語で本を読みますか。



ではこれからたくさん本を読んでください。ありがとうございました。

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ(あらすじ)	重要な出来事を順序通りに再生できる	5 3 1
2	人物・場面(様子)	登場人物や場面の様子をとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	絵から情報を読み取り、出来事の順序を意識して予測できる	5 3 1
音読行動			
5	音読の正確さ	ひらがな文字の読み間違い、読み飛ばし、挿入などの間違いがない	5 3 1
6	文字と音の対応	文字を指すとき、いつも文字と音との一対一の対応ができる	5 3 1
7	カタカナ語の識別と読み	カタカナ文字が読める	5 3 1
8	特殊読み	ひらがなの濁音・半濁音、拗音・長音・促音、助詞の「は」「へ」などの特殊読みができる	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじ再生で、登場人物、ものの名前を正確に再生できる	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
10	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
11	読書の質と量	絵本などの短いまとまりのある本をよく手にとる(毎日のように読んでもらう習慣がある)	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 11 = 平均点⇒	

診断シート レベルB『ことりと木のは』

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ(あらすじ)	重要な出来事を順序通りに再生できる	5 3 1
2	人物・場面(様子)	登場人物や場面の様子をとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、出来事の順序を意識して予測できる	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	安定して、単語か文節単位で区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	絵本などの短いまとまりのある本を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 12 = 平均点⇒	

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・流れ(あらすじ)	はじめから終わりまで順序よく、重要な出来事を再生できる	5 3 1
2	人物・場面(様子)	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話することができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	挿絵や題名から情報を読み取り、出来事の順序やつながりを意識して、物語の流れを予測できる	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	挿絵や写真付きの短い物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 1 2 = 平均点⇒	

診断シート レベルC2 『あつまれ、楽器』
低学年・中学年用

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・構成 (あらすじ)	話の構成を意識し、重要な内容を再生できる	5 3 1
2	描写・説明	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話すことができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	挿絵や写真付きの短い物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 1 2 = 平均点⇒	

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	母語で年齢相応レベルの本を読み、日本語でも辞書などを使いながらこのレベルのテキストを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

診断シート レベルD『貝がら』
 中学年用

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	順序・構成 (あらすじ)	話の構成を意識し、重要な内容を再生できる	5 3 1
2	描写・説明	細部の情報をよくとらえ、再生できる	5 3 1
3	感想	テキストの内容について感想をもち、理由を示しながら、詳しく話することができる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	題名や挿絵から、テキストのテーマ・内容を推測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
音読行動			
6	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
7	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
8	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
9	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
10	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
11	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
12	読書の質と量	中学年向けのまとまりのある物語や説明の本などを進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考 (母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 1 2 = 平均点⇒	

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をふまえ、複数の出来事につながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	母語で年齢相応レベルの本を読み、日本語でも、このレベルのテキストを、辞書などを使いながら進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 1 3 = 平均点⇒	

診断シート レベルE『アニメーションとわたし』

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をふまえ、複数の出来事につながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	高学年向けの様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

名前: _____ (男・女) 学年(所属): _____ 年 月 日

録音データを聞きながら、当てはまる評価点(5・3・1)に○をつける。判断に揺れる場合は、中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよい 3:ふつう 1:もう少し

読解力			
1	内容理解と要約	内容構成をよく理解し、重要な点をまとめて再生できる	5 3 1
2	要旨・主題の解釈	要旨・主題を理解し、根拠を示しながら、説明できる	5 3 1
3	要旨・主題に対する意見	自分の意見を、根拠を示しながら、詳しく説明できる	5 3 1
読書行動			
4	予測・推測	読んだ初めの部分の内容をひまえ、複数の出来事につながりや展開を予測する	5 3 1
5	音読のつまずきへの対処	読み間違いに気づき、修正できる	5 3 1
6	自分の読みへの内省	内容をよりよく理解するために、自分自身がどのように読んでいるか意識できる	5 3 1
音読行動			
7	区切り方	たいてい文や意味のまとまりで区切る	5 3 1
8	音読の正確さ	読み間違いがない	5 3 1
9	表現・イントネーション	イントネーションをうまく調整し、句読点にもよく注意している	5 3 1
語彙・漢字			
10	あらすじ再生での重要語彙の使用度	あらすじの重要な語彙をよく再生できる	5 3 1
11	語彙や漢字の読み	語彙や漢字を正しく読める	5 3 1
読書習慣・興味・態度			
12	読書嗜好	本や読書が好きである	5 3 1
13	読書の質と量	中学生向けの様々なジャンルの本や文章を進んでたくさん読む	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ / 13 = 平均点⇒	

ステージ	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読解方略（予測・推測、関連づけ、読み返し等）を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物を進んでたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って、読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物がある程度読む習慣がある
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の本や読み物を読む習慣がある
3	<input type="checkbox"/> 2つ（または3つ）下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略を使い始める	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 普段よく目にする身の回りの簡単な単文が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違いに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読む
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得がはじまる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

* 年齢枠と読み物のレベルとの関係は、本章5節の【テキストの対象年齢】を参照してください。